

入試制度の詳細につきましては、鳥取県教育委員会高等学校課ホームページ（高等学校入学者選抜、転・編入学試験情報）をご覧ください。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/76404.htm>

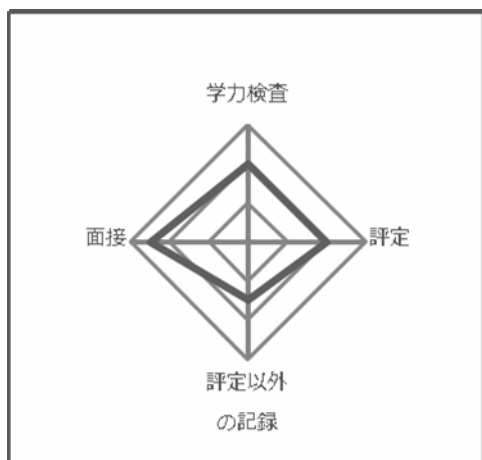
平成28年度 高等学校入学者選抜の概要

/ 一般入学者選抜 /

調査書、学力検査の合計得点、面接などを資料として総合的に判定します。その際、調査書の各教科の評定を合計した合計評定（ただし、学力検査を実施しない教科の評定は学力検査を実施する教科の評定の2倍）も資料とします。また学力検査の各教科の配点は50点で、学力検査実施教科の得点の合計を合計得点とします。

出願期間	[入学志願書受付] 平成28年2月22日（月）～24日（水）正午 [志願変更受付] 平成28年2月26日（金）～29日（月）正午
一般入試検査日	[学力検査] 平成28年3月8日（火） [面接] 平成28年3月9日（水）
合格者発表	平成28年3月16日（水）

① 合否の判定方法（イメージ）



② 調査書の合計評定の算出方法（例）

※A 高等学校を志望するビーゼミ太郎くんの場合

国語	数学	英語	理科	社会	音楽	体育	技家	美術
4	3	5	3	5	4	4	3	3

(調査書の合計評定) = { (4+3+5+3+5) + (4+4+3+3) × 2 } × 2 = 96

- ・ (4+3+5+3+5) …… 学力検査を実施する教科の評定
- ・ (4+4+3+3) × 2 …… 学力検査を実施しない教科の評定
- ・ × 2 …… A 高等学校が決定した倍率

/ 各教科の傾向と対策 /

学力検査を実施する教科の出題傾向と対策は下記の通りです。

国語 (平成27年度入試) 50分・50点満点

近年、大問は〈国語知識〉〈論説文〉〈小説文〉〈古文〉〈条件作文〉の五題構成で定着。論説文、小説文ともに読みやすく基礎力を問う出題が主流。記述問題は本文中の一部を抜き出し、それを設問条件に合うように修正するタイプのものがほとんど。本文と題意の丁寧な読解が求められる。また、訓読、ことわざ・慣用句、書写、討論など基

礎的な知識が幅広く出題されるので、それらをしっかりと身につけるとともに、小説文や論説文では問題数をこなして論旨や人物の心理を読み取る力を鍛えておこう。また、資料を読み取り、10～15分で200字程度の作文にまとめる練習も積んでおこう。

数 学

(平成 27 年度入試) 50 分・50 点満点

平成 27 年度は大問六題の構成。基本的な問題から思考力が問われる難問まで幅広く出題される傾向にある。大問一は基本的な小問集合。配点は全体の約 3～4 割あるため確実に正答に導くことが求められる。大問二、三は〈資料の活用〉に関する出題。大問四は〈連立方程式〉、大問五は〈2 次関数〉、大問六は〈空間図形〉と〈三平方の定理〉、〈相似〉の融合問題。特に大問二や三は、一度学習するとそれ以降教科書には出てこない独立した単元。こうした他学年で学習する単元との関連性が薄い「資料の散らばりと代表値」「確率」のような単元は、用語の意味や考え方を忘れがちになるため計画的に復習しておこう。

英 語

(平成 27 年度入試) 60 分・50 点満点

平成 26 年度より試験時間が 50 分から 60 分に延長されている。大問一はリスニング、大問二は語彙・文法に関する語順整序・適語補充の問題、大問三、四、五は長文読解の大問四題による構成(平成 27 年度)。特に長文問題は、理由説明や段落の要約など内容把握をふまえた出題が多いため、速く・正確に読み取る力を身につけることが求められる。英語を「聞く」「読む」「書く」基礎力を充実させれば正答に導ける問題が大半であるので、語彙・文法の知識をしっかりと身につけ、400 語程度の英文を読んで、読みの速さと内容理解の正確さを鍛えておこう。

社 会

(平成 27 年度入試) 50 分・50 点満点

平成 26 年度より大問構成は、地理、歴史、公民各 1 題の三題構成となっている。近年の傾向としては、地理における統計資料や地図の読み取りは必出、歴史は古代から現代にいたるまで幅広く出題されている。また公民は時事問題に関連づけた経済分野の出題が特徴。

地理は教科書や地図帳・資料集の統計資料を活用し、世界各国や各都道府県の産業の特色をしっかりと押さえておこう。また、歴史は年表を利用し、各時代の人物やできごとを整理してどの時代に何が起こったかを正確に判断できるようにしておこう。

理 科

(平成 27 年度入試) 50 分・50 点満点

例年、大問八題による構成。〈物理〉〈化学〉〈生物〉〈地学〉の各分野から均等に出題されている。特に、「物質の変化」「化学変化と原子」の単元がほぼ毎年出題されている。タイプ別には、記述・計算問題、化学反応式とともに作図の問題が必出。いずれも実験・観察を中心に基礎的・基本的な知識を問う問題がほとんどである。

実験・観察を中心に教科書の基本事項を覚えた上で、文章記述、計算問題、化学反応式、作図・グラフについては問題演習を積んで確実に正答を導けるようにしておこう。